

I 評価の目的

職業実践専門課程の教育水準の維持・向上を図る、
个性的で多様な発展に資する

- (1) 評価基準に基づく評価による教育活動等の質保証
- (2) 評価結果に基づく教育活動等の改善・向上
- (3) 社会的説明責任による国民の理解と支持

II 基本の方針

- (1) 評価基準に基づく評価
- (2) 学修成果を中心とした評価
- (3) 学校の個性の伸長に資する評価
- (4) 自己評価に基づく評価
- (5) ピア・レビューを中心とした評価
- (6) 透明性の高い開かれた評価
- (7) 国際通用性のある評価

- 2-3 教育体系の適切性
- 2-4 時間割や授業の適切性
- 2-5 学生に対する履修指導・学習相談
- 2-6 教育課程に対応した設備
- 2-7 学生に対する進路指導
- 2-8 特別な支援が必要な者への対応

基準3 職業実践専門課程の認定要件の適合性

- 3-1 教育課程編制委員会等の委員構成の適切性
- 3-2 企業等との適切な連携による実習・演習
- 3-3 教育活動等に関する情報公開

基準4 内部質保証

- 4-1 自己評価・学校関係者評価の適切な実施
- 4-2 自己評価・学校関係者評価の公開
- 4-3 自己評価・学校関係者評価の結果に従った改善
- 4-4 企業等と連携した組織的な教職員研修の実施

基準5 学修成果

- 5-1 資格取得の状況から見た学修成果
- 5-2 学生からの意見聴取から見た学修成果
- 5-3 修了後の進路実績から見た学修成果
- 5-4 修了生や就職先の意見から見た学修成果

III 評価基準

基準1 目的・目標の設定および入学者選抜

- 1-1 養成人材像
- 1-2 学校の目的・目標
- 1-3 入学者受入方針
- 1-4 入学者選抜
- 1-5 定員維持

基準2 専修学校設置基準および

美容師養成施設指定規則の適合性

- 2-1 教職員組織の編制・運用
- 2-2 必要な教員の確保

IV 評価の方法・手順

- ① 評価基準に基づく自己評価結果の判断
- ② 優れた点や改善を要する点の明確化
- ③ 評価結果(案)の提示と意見申立ての受付
- ④ 評価報告書のとりまとめ、コンソーシアム報告

V 評価体制

- ・評価委員会の組織
学校学係者および業界関係者、有識者 5名

基礎	基本的な観点	観点のチェック項目	参照資料
<p>基準1 教育理念</p>	<p>①理念・目的育成人材像は定められていますか ②育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合していますか ③理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいますか ④社会にニーズ等を踏まえた将来構想を抱えていますか</p>		
<p>基準2 学校運営</p>	<p>①理念に沿った運営方針を定めていますか ②理念等を達成するための事業計画を定めていますか ③人事・給与に関する制度を整備していますか ④意思決定システムを整備していますか ⑤情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っていますか</p>		
<p>基準3 介護福祉士の職業能力の発揮・伸長(教育の質保証・向上・学修成果)</p> <p>【①必須 他から2項目選択】</p>	<p>①【必須】養成校の卒業時到達目標に沿った知識・技術の修得ができ、学修成果を確認できる体制をどのように作っていますか ②養成校の卒業時到達目標を達成するためどのようなカリキュラムを作り、それを行うように授業展開していますか ③さまざまな対象者に応じた個別化コミュニケーションの方法を修得させるために、どのような授業を展開していますか ④ターミナルケアに必要な知識・技術を習得させるために、どのような授業を展開していますか ⑤医療的ケアに関する専門的な知識・技術を習得させるために、どのような授業を展開していますか ⑥介護福祉士の職業能力の発揮・伸長(教育の質保証・向上・学修成果)のために特色ある独自の取り組みとして、どのようなことを行っていますか</p>	<p>・タイプロポリシーが示されている ・タイプロポリシーが、教員・学生ともに周知されている ・カリキュラムポリシーが示されている ・カリキュラムポリシーが、教員・学生ともに周知されている ・カリキュラムマップにより、科目・授業の位置づけが明確にされている ・授業に対するプロセス評価・アウトカム評価を行い、カリキュラムの見直し等に活かされている ・利用者ばかりではなく、利用者家族、職員または他職種の種類も傾聴し、受容の姿勢で、共感的理解などができているような指導がなされている ・キューブラー・ロスによる「死の受容」の5段階など、利用者の理解を前提とした授業が行われている ・信仰、信心、宗教の自由と、精神的な安寧に配慮した授業内容となっている ・全人的ケアの必要性を伝えている ・ターミナルケアの終結に関連してエンゼルケア、グリーフケアにも言及している ・医師法、医療法の規定に言及し、医師行為について説明している ・医療職との連携について、具体的な事例を示している ・(ターミナルケアにおける)身体の変化に応じたケア、心に寄り添ったケアの教育が行われている</p>	<p>介護福祉士の職業能力の発揮・伸長(教育の質保証・向上・学修成果) シラバス 授業計画</p>
<p>基準4 介護福祉士として特に求められる介護福祉士の特性等に関する知識・技能の習得</p> <p>【①必須 他から2項目選択】</p>	<p>①【必須】認知症の基礎的・基本的知識を修得させるために、どのような教育を行っていますか ②認知症の特性等を踏まえたコミュニケーションの方法を修得させるために、どのような教育を行っていますか ③認知症の特性等を理解して、「生活支援技術」と関連させてその人らしく生活するためのサポートの方法をどのように教育していますか ④認知症の種類・特性を理解させるために、どのような実習演習教育を行っていますか ⑤個別の心身状況に沿った介護を行うために、「生活支援技術」や「介護過程」等の専門科目において、どのようなアプローチ方法を教育していますか ⑥介護福祉士として特に求められる認知症の種類・特性等に応じたスキル教育のために、特色ある独自の取り組みとして、どのようなことを行っていますか</p>	<p>・認知症について医学的・心理的・社会的等、多角的な理解ができるような教育が行われている ・認知症の状況の如何によらず、すべての人が尊厳ある存在であることを伝えている ・個々の状況や個人の特性に応じたコミュニケーション技術を教授している ・認知症への専門的な対応の手法(バーソンドセンタードケア、回想法、リアリティ・オリエンテーション、パリエーション、ユーマニティー等)を教授している ・認知症の方に対して実施に役立つような演習を取り入れている ・認知症の方に対して実践的な対応するためのロールプレイ等を演習に取り入れている ・「自己決定」と専門職の判断の関係について、考えさせる授業を行っている ・「その人らしい生活」、「生活の継続性」を理解させる授業内容である</p>	<p>シラバス 授業計画</p>
<p>基準5 介護福祉士養成校の教員の資質向上</p> <p>【①必須 他から2項目選択】</p>	<p>①【必須】教員の研修計画をどのように作成し推進していますか ②介護福祉士養成施設協会の研修会、関連学会、職能団体の研修会等へ参加しやすくするために、どのような体制をとっていますか ③地域において開催される行政や民間による専門職の研修会へどのように参加していますか ④教育方法や学生指導において、教員間で育て合い、サポートし合う体制をどのようにとっていますか ⑤教員のスキルアップを図るために、どのような取り組みを行っていますか</p>	<p>・年間研修計画書が作成され、実際に計画どおりに実施されている ・組織的な研修体制が整えられている ・教育の質の改善・向上が図られる取り組みが行われている ・介護福祉士養成施設協会主催のプロック研修会、全国教職員研修会への参加を勧奨している ・介護福祉士会、その他自主的勉強会等への参加を積極的に行っている ・介護現場にて最新技術を学ぶ機会を、制度として取り入れている(あるいは現場との業務を認めているか) ・地域における行政や民間団体等の研修会、OJTあるいはoff-JTとして認めている ・教員会議を計画的に実施している ・学生指導や教育への利用等、学生情報の共有化について教員間でコンセンサスがとれている ・FD(ファカルティ・ディベロップメント)活動を計画的に実施している ・教員の自己点検・評価が、学内で定期的に行われている ・教法勉強会や教員間の授業見学会が行われている ・教育・研究業績について、教員間のピアレビューが行われている</p>	<p>事業計画書 事業報告書 ISO関連書類</p>

<p>基準6 介護福祉士の生きがい・やりがい・キャリア形成等を醸成する教育</p> <p>【①必須 他から2項目選択】</p>	<p>①【必須】資格取得後のキャリア形成について、どのように授業に取り入れていますか</p> <p>②キャリア形成の仕組みを理解させるため、どのような取り組みをしていますか</p> <p>③介護福祉士を担う専門職の土台となる、社会人としての教養・一般常識・マナー等をどのように伝えていますか</p> <p>④就職への自覚や意欲を持たせる教育を、どのように行っていますか</p> <p>⑤介護福祉士として働く意欲や、職業倫理・社会的使命についての個別面談を、どのように行っていますか</p> <p>⑥介護福祉士の生きがい・やりがい・キャリア形成等を醸成する教育のために、特色ある独自の取り組みとして、どのようなことを行っていますか</p> <p>⑦【必須】実習に向けての事前準備と実習後のフィードバックを、どのように行っていますか</p> <p>⑧実習巡回時に実習指導者と十分なカンファレンスの時間を取るために、どのような動きかけをしていますか</p> <p>⑨本人の適性に基づいた実習が行えるようにするために、どのような体制をとっていますか</p> <p>⑩施設や居宅など多様な暮らしの特性を学ばせるために、どのような実習体制をとっていますか</p> <p>⑪実習先の実習指導者との懇談会等を、どのような方法、頻度で実施していますか</p> <p>⑫実習先との連携のために、特色ある独自の取り組みとして、どのようなことを行っていますか</p>	<p>・現場スタッフによる体験談・職場紹介を行っている</p> <p>・卒業生によるキャリアアップ体験報告を行っている</p> <p>・キャリアアップ指導、事例の紹介等、就職(支援)担当者連携による授業を実施している</p> <p>・学生がキャリア段位の仕組みを認識できる</p> <p>・日本介護福祉士会の生涯研修制度についても、併せて紹介している</p> <p>・認定介護福祉士、専門介護福祉士、上級介護福祉士、介護支援専門員等、介護福祉士資格取得後にさらに取得する資格について紹介している</p> <p>・介護福祉士が支援を行う際に必要な知識(歴史的背景や文化、産業について等)を教授している(介護ならではの教育)</p> <p>・専門職としての品位のある言葉を使うよう指導している</p> <p>・状況に応じたコミュニケーションをとることができるよう、非言語的方法を含める等、教授法を工夫している</p> <p>・現場の生の声を伝える工夫がされている</p> <p>・教員(実務家)の現場経験を伝えている</p> <p>・面接や面談は個人の目標や個性、将来性等について個別に行っている</p> <p>・日本介護福祉士会倫理顧問および行動規範に基づき、倫理は使命等を習熟できる指導をしている</p>	<p>学校案内 オープンキャンパス資料</p>
<p>基準7 介護福祉士の実習における実習先との連携</p> <p>【①必須 他から2項目選択】</p>	<p>①実習指導者との打ち合わせの機会を、計画的に設けている</p> <p>②実習指導者として、ロールプレイ演習を行っている</p> <p>③実習の全体または個別のオリエンテーションを学内で実施している</p> <p>④実習報告会を実施している</p> <p>⑤巡回指導教員と実習指導者が、巡回指導の計画(日程)について綿密に連絡を取り合っている</p> <p>⑥巡回指導教員が、巡回指導に十分な時間を確保している</p> <p>⑦実習指導者に教育を担う一員であることを理解してもらっている</p> <p>⑧実習に関する本人の希望を調査している</p> <p>⑨実習に関する個別面談を行っている</p> <p>⑩福祉現場へのインターンシップを行っている</p> <p>⑪地域資源である団体・機関(社会福祉協議会、ボランティアグループ等)と連携している</p> <p>⑫利用者と個別の関わりを学ばせる体験学習(里親実習等)を取り入れている</p>	<p>・実習前教育として、ロールプレイ演習を行っている</p> <p>・実習の全体または個別のオリエンテーションを学内で実施している</p> <p>・実習報告会を実施している</p> <p>・巡回指導教員と実習指導者が、巡回指導の計画(日程)について綿密に連絡を取り合っている</p> <p>・巡回指導教員が、巡回指導に十分な時間を確保している</p> <p>・実習指導者に教育を担う一員であることを理解してもらっている</p> <p>・実習に関する本人の希望を調査している</p> <p>・実習に関する個別面談を行っている</p> <p>・福祉現場へのインターンシップを行っている</p> <p>・地域資源である団体・機関(社会福祉協議会、ボランティアグループ等)と連携している</p> <p>・利用者と個別の関わりを学ばせる体験学習(里親実習等)を取り入れている</p> <p>・実習指導者との打ち合わせの機会を、計画的に設けている</p>	<p>学校案内 事業計画書 事業報告書 ISO関連書類</p>
<p>基準8 介護福祉士の専門的力量的の向上</p> <p>【①必須 他から2項目選択】</p>	<p>①同窓会組織との連携による卒業後の活動を行っている</p> <p>②卒業生を対象とした研修会・学習会を実施している</p> <p>③卒業生から相談を受ける担当部署を設けている</p> <p>④卒業生からの相談記録を整え、相談内容を閲覧できるようにしている</p> <p>⑤職能団体の意識。目的を授業の中で教示している</p> <p>⑥職能団体との連携を深めるために、団体スタッフの来校を促している</p> <p>⑦既存の学内研究会・学内学会等の研究組織が存在し、実際に機能している</p> <p>⑧自主研究会・自主勉強会の立ち上げを支援する制度、担当部署が設けられている</p> <p>⑨学び直しのための教育体制を整えられている</p> <p>⑩社会人を受入れる体制(設備・制度)が整っている</p>	<p>・同窓会組織との連携による卒業後の活動を行っている</p> <p>・卒業生を対象とした研修会・学習会を実施している</p> <p>・卒業生から相談を受ける担当部署を設けている</p> <p>・卒業生からの相談記録を整え、相談内容を閲覧できるようにしている</p> <p>・職能団体の意識。目的を授業の中で教示している</p> <p>・職能団体との連携を深めるために、団体スタッフの来校を促している</p> <p>・既存の学内研究会・学内学会等の研究組織が存在し、実際に機能している</p> <p>・自主研究会・自主勉強会の立ち上げを支援する制度、担当部署が設けられている</p> <p>・学び直しのための教育体制を整えられている</p> <p>・社会人を受入れる体制(設備・制度)が整っている</p>	<p>事業計画書 事業報告書 ISO関連書類</p>
<p>基準9 学生の募集と受け入れ</p>	<p>①高専学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいますか</p> <p>②学生募集を適切かつ効果的に行っていますか</p> <p>③入学選考基準を明確化し適切に運用していますか</p> <p>④入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用していますか</p> <p>⑤学生募集と受け入れのために、特色ある独自の取り組みとして、どのようなことを行っていますか</p> <p>⑥適切な学校運営を行うために、どのように取り組んでいますか</p> <p>⑦自己点検・評価をどのように行っていますか</p> <p>⑧学校関係者評価をどのように行っていますか</p> <p>⑨評価の充実に向けて、どのような工夫を行っていますか</p> <p>⑩教育情報をどのように公開していますか</p> <p>⑪内部質保証についての特色ある独自の取り組みとして、どのようなことを行っていますか</p>	<p>・高専学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいますか</p> <p>・学生募集を適切かつ効果的に行っていますか</p> <p>・入学選考基準を明確化し適切に運用していますか</p> <p>・入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用していますか</p> <p>・学生募集と受け入れのために、特色ある独自の取り組みとして、どのようなことを行っていますか</p> <p>・適切な学校運営を行うために、どのように取り組んでいますか</p> <p>・自己点検・評価をどのように行っていますか</p> <p>・学校関係者評価をどのように行っていますか</p> <p>・評価の充実に向けて、どのような工夫を行っていますか</p> <p>・教育情報をどのように公開していますか</p> <p>・内部質保証についての特色ある独自の取り組みとして、どのようなことを行っていますか</p>	<p>基準10 内部質保証</p>

専修学校職業実践専門課程（理学・作業療法分野）第三者評価 評価基準項目（2015年度版）

大項目	中項目	説明	評価	根拠
基準1 目的・目標の設定及び入学選抜	1-1 養成する人材像の明確化	学校の目的・目標において、学生が身につける学力、資質・能力や養成しようとするセラピスト像等が、定められているか。	5 4 3 2 1	
	1-2 目的・目標の周知・公表	学校の目的・目標が、構成員（教職員および学生）に周知され、社会に広く公表されているか。	5 4 3 2 1	
	1-3 入学受入方針の明確化と公表・周知	学校の目的・目標に沿って、求める学生像や入学選抜の基本方針等が記載された入学受入方針が明確に定められ、公表、周知されているか。	5 4 3 2 1	
	1-4 入学選抜の公正な実施	入学受入方針に沿った学生の受入方法が採用されており、実際の入学選抜が、適切な実施体制により公正に実施されているか。	5 4 3 2 1	
	1-5 入学定員と入学人数の適正化	入学人数が、入学定員を大幅に超える、または大幅に下回る状況になっていないか。その状況になっている場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と入学人数との関係の適正化が図られているか。	5 4 3 2 1	
	1-6 質の高い学生の確保	質の高い学生の確保を目的に入試が選抜方法も含めて計画的に実施されているか。	5 4 3 2 1	
基準2 学校運営	2-1 運営方針・事業計画	理念等を達成するための運営方針と事業計画を定めているか。	5 4 3 2 1	
	2-2 運営組織	学校運営組織を適切に整備しているか。	5 4 3 2 1	
	2-3 人事・給与制度	人事・給与に関する制度を整備しているか。	5 4 3 2 1	
基準3 財務	3-1 財務基盤	学校及び法人運営の中長期的な財務計画を議論しているか。	5 4 3 2 1	
	3-2 財務基盤の分析	学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか。	5 4 3 2 1	
	3-3 予算・収支計画	予算及び執行計画に基づき適正に執行管理を行っているか。	5 4 3 2 1	
	3-4 監査	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか。	5 4 3 2 1	
	3-5 財務情報の公開	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか。	5 4 3 2 1	
基準4 専修学校設置基準及び理学療法士・作業療法士養成施設指定規則との適合性	4-1 教職員の採用及び組織編制	教員組織および職員組織の編制のための基本的方針を有しており、それに基づいた教職員の採用および組織編制が行われているか。	5 4 3 2 1	
	4-2 必要数の教員確保	カリキュラムを遂行するために必要な教員が確保されているか。また、専門分野に関し教育上の指導能力があると認められる専任教員が、関係法令が定める数以上置かれているか。	5 4 3 2 1	
	4-3 カリキュラムの適切さ	授業科目が適切に配置され、カリキュラムが体系的に編成されているか。カリキュラムの編成や教育内容が、学生の多様なニーズ、医療・介護福祉分野の動向、社会からの要請等を反映したものになっているか。また、教育内容が理学療法士、作業療法士養成施設指定規則、別表第1、第1の2、または、別表第2、第2の2に定めるもの以上となっているか。	5 4 3 2 1	
	4-4 時間割設定の適切さ	学生の履修単位に配慮した適切な時間割の設定等がなされているか。	5 4 3 2 1	
	4-5 履修指導・学習相談の適切な実施	学生の履修指導および学習相談・助言が、学生の過去の履修歴や社会経験を踏まえて適切に行われているか。	5 4 3 2 1	
	4-6 施設・設備の整備と活用	カリキュラムに対応した施設・設備（図書室、視聴覚資料や機器、その他の教育上必要な資料を含む）が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備の整備は、理学療法士、作業療法士養成施設指定規則に定めるもの以上になっているか。	5 4 3 2 1	
	4-7 就職活動に対する支援の適切な実施	学生支援の一環として、学生がその能力および適性、志望に応じて、主体的に進路を選択できるように、就職ガイダンス、求人票の整理、就職情報の開示、個別面談による相談などが適切に行われているか。	5 4 3 2 1	
	4-8 成績不振者への支援体制の整備	成績不振などにより、個別に学習支援が必要と考えられる学生に学習支援の実施体制が整備されているか。	5 4 3 2 1	

基準5 職業実践専門課程の認定要件の適合性	5-1 教育課程編成委員会等の適切な運営	教育課程編成委員会等の委員構成が適切であり、委員会が適宜開催され、その結果がカリキュラム等の内容に反映されているか。(なお、教育課程の編成内容に関しては、基本的な観点 2-2~2-5 において評価する。)	5	4	3	2	1	
	5-2 医療・介護福祉施設と連携した実習・演習等の有効な実施	医療・介護福祉施設と連携した実習・演習等が適切に実施され、カリキュラム編成の中で有効に機能しているか。基礎分野、専門基礎分野、専門分野の3つの分野が有機的に結びつきながら学び、最終学年では臨床実習を中心に学ぶ構成になっているか。	5	4	3	2	1	
	5-3 教育活動等の情報の公表	教育活動等に関する情報が、ホームページ等により適切に公表されているか。	5	4	3	2	1	
	5-4 医療・介護福祉施設の人材育成のニーズの把握	医療・介護福祉施設の人材育成のニーズに対応するため、関連業界等主催の学会、研修会に教員が積極的に参加しているか。また、学校が組織的・継続的に教員が研修に参加することが出来る援助体制がとれているか。	5	4	3	2	1	
	5-5 学会・講習会受講後の学内へのフィードバック体制	学会・講習会受講後、伝達講習会等で学内にフィードバックする体制が整っているか。	5	4	3	2	1	
	5-6 学外の専門家の学内教育の参画	学外の専門家を学内教育に参画していただき相互の情報交換を実施しているか。	5	4	3	2	1	
基準6 内部質保証	6-1 自己点検・評価及び学校関係者評価の組織的な実施	学生受入の状況、教育の状況および成果や効果について、自己点検・評価および学校関係者評価が組織的に行われているか。その際、学生からの意見、学外関係者の意見や専門職域に係わる社会のニーズが、自己点検・評価および学校関係者評価が組織的に適切に行われているか。	5	4	3	2	1	
	6-2 自己点検・評価及び学校関係者評価の結果の公開	自己点検・評価および学校関係者評価の結果が学校内および社会に対して広く公開されているか。	5	4	3	2	1	
	6-3 自己点検・評価及び学校関係者評価の結果に基づく組織的な改善の取組	自己点検・評価および学校関係者評価の結果がフィードバックされ、教育の質の改善・向上のための取組が組織的に行われ、教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。	5	4	3	2	1	
	6-4 FD・SDの組織的な実施	企業等と連携した組織的な教員研修(ファカルティ・ディベロップメント)および職員研修(スタッフ・ディベロップメント)が適切に実施されているか。	5	4	3	2	1	
	6-5 FD・SDの組織的な実施の結果に基づく組織的な改善の取組	教員研修や職員研修の結果が、教育の質の改善・向上に有効に機能しているか。	5	4	3	2	1	
基準7 学修成果	7-1 単位取得・進級・退学・卒業等から判断する学修成果	単位修得の状況や、進級率、退学率、卒業率(入学者が修業年限で卒業した人数)の水準は、意図している学修成果があがっているか。	5	4	3	2	1	
	7-2 資格修得から判断する学修成果	国家試験合格率は全国平均と比較して、意図している学修成果があがっているか。	5	4	3	2	1	
	7-3 学生による授業評価等から判断する学修成果	授業評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、意図している学修成果があがっているか。	5	4	3	2	1	

	7-4 卒業後の就職状況等から判断する学修成果	卒業後の進路の状況等や就職率は学校が定めた水準で、その実績や成果から判断して、意図している学修成果があがっているか。	5	4	3	2	1	
	7-5 卒業生・就職先等関係者の意見等から判断する学修成果	卒業生や就職先等の医療・介護福祉施設関係者からの意見聴取の結果から判断して、意図している学修成果があがっているか。	5	4	3	2	1	
基準 8 教育目標として 設定した専門技 術の習得	8-1 医療面接技術の習得	実習に臨む前の学生として、面接の目的、面接技法について理解し、対象者と良好な人間関係構築ができるレベルに技術が習得されているか。	5	4	3	2	1	
	8-2 診療記録や他職種からの情報収集と収集した情報の統合	診療記録や他職種からの情報収集と収集した情報の統合ができるレベルに技術が習得されているか。	5	4	3	2	1	
	8-3 評価技術の習得	障害を理解する為の評価技術（関節可動域測定、筋力測定、感覚検査など）は習得されているか。	5	4	3	2	1	
	8-4 得られた結果を基に統合と解釈する能力の習得	得られた情報や結果を基に、障害を理解する為、統合と解釈する能力は習得されているか。	5	4	3	2	1	
	8-5 治療目標の設定	障害を理解し、予後を予測し、治療による改善性を考察し、妥当な治療目標を設定する能力は習得されているか。	5	4	3	2	1	
	8-6 治療プログラムの立案と実施する能力の習得	治療目標を達成させるための治療プログラムの立案と実施する能力は習得されているか。	5	4	3	2	1	
	8-7 未習得者に再指導を実施する体制	未習得者に再指導を実施する体制があるか。	5	4	3	2	1	
	8-8 臨床実習前の時期に臨床経験を考慮した教育	臨床実習前の時期（1年次・2年次）に臨床経験を考慮した教育を実施しているか。	5	4	3	2	1	
基準 9 臨床実習におけ る産学連携	9-1 臨床実習前の学生の到達レベルのチェック	臨床実習に臨む前の学生の知識・技術・資質面の到達レベルのチェックは臨床実習指導者や卒業生が評価に入って O S C E 等を実施しているか。	5	4	3	2	1	
	9-2 学生の到達レベルのチェック体制の連携	O S C E 等の学生の到達レベルをチェックする体制は、教員と医療・介護福祉施設のセラピストにより構成されているか。	5	4	3	2	1	
	9-3 臨床実習目前に意見交換の場の設定	臨床実習指導者会議等で、実習開始前に、実習の各期の目的、到達目標、学生の現状について十分に討議が実施されているか。	5	4	3	2	1	
	9-4 意見交換の場での討議の充実	臨床実習指導者会議等で討議された内容が、臨床実習での学生への指導に反映されているか。	5	4	3	2	1	
	9-5 臨床実習指導者と教員との緊密な連携体制	臨床実習指導者と教員とが緊密に連携し、指導方法について、情報を共有した上で、学生の課題を明確にし、実習指導が実施されているか。	5	4	3	2	1	
	9-6 教員の臨床実習施設での学生指導の参加体制	臨床実習施設の臨床現場での教員の学生指導の参加体制が可能な範囲で整備されているか。	5	4	3	2	1	

	9-7 学生に対する実習評価について臨床実習指導者の理解	学生に対する実習評価について臨床実習指導者が評価項目について、臨床実習指導者の理解を得ているか。	5	4	3	2	1	
	9-8 学生に対して、課題をフィードバックする体制	評価された課題を学生に対して、フィードバックする教育体制があるか。	5	4	3	2	1	
	9-9 臨床実習施設間での学生指導の連携	次期実習に向けて、臨床実習施設間での学生の課題や現状について報告する体制を有しているか。	5	4	3	2	1	
基準 10 社会貢献・地域貢献	10-1 社会貢献・地域貢献	学校の教育資源（人材・設備等）を活用した社会貢献、地域貢献等を行っているか。	5	4	3	2	1	
	10-2 ボランティア活動	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか。	5	4	3	2	1	

【参考資料】

- ・平成 26 年度文部科学省受託事業「職業実践専門課程の各認定要件等に関する先進的取組の推進」第 2 回連絡調整会議 各コンソーシアム取組事例
- ・専修学校職業実践専門課程（美容分野）第三者評価試行 評価基準要綱（素案）
- ・柔道整復師養成分野における第三者評価基準一覧表（試案）
- ・特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構 専門学校等第三者評価
- ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構 認定審査